

新潟職能短大通信

〈当校をめぐる一年の動き〉



二月とはいえ、まだまだ厳しい寒さが続きます。昨年は、原油価格の急激な乱高下とそれに続く世界的な金融不安、そして雇用情勢の悪化など、それまで好調だった経済情勢が一変した年になりました。

様々な議論が行われてきました。

その間、新発田市、新潟市など九市一町をはじめ商工会議所や工業団地組合、さらには新潟県議会等から当短期大学の存続を求め、要望書が政府に提出されました。全国の市町村等からも同様な要望書が五百件近く出されたと聞いています。

結果として、昨年十二月二十四日の閣議決定により、機構の業務は能力開発(教育訓練)に絞った上で別法人に統合することとなりました。

当短期大学校にとってはこの一年、国の行政改革に揺れた年になりました。一昨年の暮れに当校を運営する雇用・能力開発機構をめぐって、そのあり方が問われることとなりました。

厚生労働省や総務省において有識者による会議が開かれ、機構の廃止を含め

べきとの意見があります。雇用・能力開発機構では短大校を全国に十二校、大学校を十校運営しています。

また、岩手県や山形県、長野県などのように地方自治体が設置運営している短期大学校も十校ほどあります。

こうしたことから、国と地方自治体がその役割を明確にした上で教育訓練の充実に努める必要があります。雇用情勢が悪化している今こそ、もう一度原点にもどって実践技術者の育成に努めてまいりたいと思います。

ところで、心配した雪不足も解消し県下のスキー場はどこにもぎわっていることと思います。当校では毎年、一年生を対象としたスキー授業を体育講師の大滝先生やスキー場関係者のご協力により実施しています。

場所は市内のニノックススキー場で、各科ごとに土曜日または日曜日の一日を使って行います。学生は初心者から上級者まで様々ですが、大滝先生ともう一人のスキー指導員の方による特訓で上達も早いようです。新発田の地の利を活かして大いに心身を鍛えて欲しいものです。



今年もよろしくおねがいします



上級者？は、いざゲレンデへ！



まずは入念な準備運動

この一年、地域の方々から当短期大学の存続に向けて多大なご支援を賜りました。ここに改めて感謝いたしますとともに厚く御礼申し上げます。

新潟職能能力開発短期大学校
校長 平塚剛一